

令和4年度

富加町教育委員会事務の点検・評価報告書

(令和5年度実施)

富加町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により、令和4年度富加町教育委員会事
務の点検及び評価の報告書として本書を提出します。

令和5年9月11日

富加町教育委員会

令和4年度富加町教育委員会事務の点検・評価報告書

1. はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

本町教育委員会では、教育委員会が定める教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が執り行っている教育行政事務について、学校教育を除いた事業を対象に教育委員会自らが事後に点検及び評価を行いました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、客観性を確保するために評価の方法や結果について意見を聴取する機会として、有識者会議を開催し、教育主要施策及び事務事業について評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本町の教育行政に役立て、さらには住民の皆様からの情報、ニーズも幅広く収集し、今後の事務の改善・充実に努めます。

2. 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事務事業は、点検及び評価を行う年度（実施年度の前年度の事務事業）の富加町教育委員会の教育計画等に定める施策に関する事務事業のうち、点検及び評価を行うことが必要と認める事務事業を対象としました。

3. 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書にとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善等に役立てるものとします。

4. 評価の方法等について

教育委員会の教育計画等に定める施策に関する事務事業のうち、点検及び評価の対象事業を主要施策（重要項目）9項目35事業について、事務担当課で一次評価（内部評価）を行いました。

一次評価を行った事務事業について、外部有識者会議において二次評価を行いました。

また、有識者によりご意見等をいただきました事項については、教育委員会において協議・議決をし、その結果を取りまとめた報告書を議会へ提出し、公表します。

5. 外部評価有識者について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定の趣旨に基づき、事務事業の点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識を有する者、教育に関し識見を有する者により構成する有識者により、一次評価の結果について意見をいただきました。

◇有識者名簿

氏名	帰属	部門	備考
松田知幸	富加小学校長	学校運営・学社連携	
竹内久美子	双葉中学校長	学校運営・学社連携	
櫻山一倉	富加町社会教育委員会会長	社会教育全般	

井戸靖司	富加の青少年を育てる会会長	地域教育（青少年育成）	
井戸要子	富加町民生児童委員	一般有識者（地域支援）	
渡辺彰	富加町スポーツ推進委員 委員長	一般有識者（社会体育）	

【報告書の構成】

本報告書は、前記「評価の方法等について」に示した方法により決定した評価について、重点項目別に要約したものです。

評価では、対象事業を9項目に大分類し、それぞれの項目毎に細分類した重点項目を設定し、AからDまでの総合判定を行いました。

AからDまでの判定基準は次のとおりです。

- | |
|--|
| <p>A：当初の目標が順調に達成されているもの（◎印で表示）</p> <p>B：当初の目標が概ね順調に達成されたが、少しの課題が残るもの（○印で表示）</p> <p>C：計画のとおり達成する見込みが無く、多くの課題があるもの（△印で表示）</p> <p>D：未着手・未実施のもの（－で表示、事業の廃止等を含みます。）</p> |
|--|

重点項目の評価の結果

5年間の評価の結果（項目数）は、次のとおりです。

判定	30年度	元年度	2度	3年度	4年度
A	22	22	14	12	16
B	19	19	10	12	11
C	0	0	14	13	8
D	0	0	3	4	0
合計	41	41	41	41	35

※ 教育計画の見直しにより、年度によって重点項目数が違うため合計は一致しません。

以上の結果から、令和4年度事業については、令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となっていた各種行事の一部が再開されたことなどにより、C判定、D判定の項目は減少しています。また、こども課が新設されたことなどから、点検評価シートの整理見直しを行ったため、項目数が減少しています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない項目や、再開された各種事業については、一部課題はあるものの概ね順調に達成することができています。A判定項目も含めて、これからの事業推進・改善に役立てていきます。

今後、法の趣旨に基づき、毎年度、点検・評価を実施することにより、施策の改善に反映させるとともに、効果的な事務事業の更なる推進に努めます。

令和4年度富加町教育委員会事務の点検・評価のまとめ

点検・評価を重点項目別に下記のとおり要約しました。

1. 教育委員会の活動

【重点項目】1-1 教育委員会の会議開催

【評価】A

【成果・課題】

年間13回（定例会12回、臨時会1回）の教育委員会議を開催し、教育行政に関する重要事項等の審議・決定を行った。

【重点項目】1-2 教育委員会規則等の制定及び改廃

【評価】A

【成果・課題】

要綱の制定を3件、規則の一部改正を1件、規程の一部改正を1件行った。

【重点項目】1-3 教育委員会による視察、研修、参観

【評価】B

【成果・課題】

コロナの状況を考慮しながら、教育委員会による学校訪問、学校式典、学校行事などの参加・参観を一部実施した。

今後、学校訪問による学校経営等の把握と施設の確認を行い、指導、支援していくとともに、その内容を町の教育計画に反映させる。

2. 教育総務事務事業

【重点項目】2-1 教育行政の総合的企画及び調整

【評価】A

【成果・課題】

教育新生夢プランの推進を図るため、令和4年度の教育計画を策定した。また、教育関連行事を集約した「子育て支援カレンダー」を作成した。

I C T教育、特別支援教育に対応した教育計画等の見直しが適宜求められる。

【重点項目】2-2 教育施設の運営管理

【評価】A

【成果・課題】

地区公民館（東・西・南）に管理人を配置し、適正に管理した。郷土資料館の管理は職員、資料調査補助員及び町シルバー人材センターへの委託により行った。

地区公民館の管理人の高齢化が進んでいる。

【重点項目】2-3 教育施設・設備の整備及び維持管理

【評価】A

【成果・課題】

主な工事として、タウンホール大ホール吊物ワイヤー・ギアオイル取替工事を行った。社会教育施設、社会体育施設の各種維持管理業務を業者委託するとともに、職員による維持管理を随時実施した。

施設老朽化による、計画的な各種修繕が必要となる。

【重点項目】 2－4 教育に関する調査及び統計

【評価】 A

【成果・課題】

地方教育費調査（毎年）の統計調査を実施した。

【重点項目】 2－5 教育関係団体への活動支援

【評価】 C

【成果・課題】

各種団体の活動がコロナ禍のため、予定事業の多くが未実施となったため、補助金は大幅減額となった。

コロナ後の各事業の再開に関し、その周知、運営方法等の確認が必要となる。

3. こども園・小学校の運営、管理

【重点項目】 3－1 こども園等の運営管理

【評価】 A

【成果・課題】

私立保育園等への給付事業を適切に実施した。町こども園等の施設及び設備の適正な維持管理を実施した。

施設の老朽化による修繕が必要となってくる。未就学児の増加により、とみかこども園の保育室が不足する可能性がある。

【重点項目】 3－2 学校施設及び設備の管理

【評価】 A

【成果・課題】

各設備の保守点検による報告事項を基に修繕工事を実施した。小学校渡り廊下トイレ（1、2階）の改修工事を実施した。

施設老朽化による、計画的な各種修繕が必要となる。

【重点項目】 3－3 学校教育の振興

【評価】 B

【成果・課題】

教育新生夢プランに基づく特色ある教育活動で「ふるさと教育」として、岐阜県について学ぶ研修を実施した。地域学校協働活動が順調に推進できた。

ふるさと教育や地域学校協働活動の推進による成果を明確にしていきたい。

【重点項目】 3－4 児童の就学支援

【評価】 A

【成果・課題】

適正就学に対する指導・助言・教育相談を行った。学校安全サポーター、見守りボランティアによる登下校の安全管理を促進した。

見守りボランティアの高齢化が進みつつある。

【重点項目】 3－5 教職員、児童の福利厚生等

【評価】 A

【成果・課題】

就学前の年長児、在学児童及び教職員の健康診断を行った。

コロナ禍のため、フッ化物洗口、歯磨きは実施しなかった。

【重点項目】 3－6 学校教職員の研修

【評価】 A

【成果・課題】

教育事務所、教育研究所が示す各種研修計画に基づき、研修へ参加した。

4. 社会教育の重点と施策

【重点項目】 4－1 共に学び合う生涯学習社会の構築

【評価】 B

【成果・課題】

公民館講座、祖父母学級「友愛ブレンド学級」及び読書活動を実施した。
公民館講座内容の住民ニーズの把握が必要。図書室を利用しない住民がいる。

【重点項目】 4－2 生涯学習基盤の整備

【評価】 B

【成果・課題】

タウンホールとみか、地区公民館の貸館事業を実施した。利用者による施設の清掃作業を実施した。

地区公民館の利用に偏りがあり、南公民館に比べ、東・西公民館の利用率が低い。

【重点項目】 4－3 生涯学習推進体制の整備

【評価】 B

【成果・課題】

生涯学習アドバイザーの会、読書サポーターズの会及び家庭教育学級の活動を実施した。英語指導助手の雇用、配置、及び活用を行った。

参加者が固定しており、参加人数も増加しない傾向にある。子ども達の外国語に対する興味や関心を高め、学力の向上を図りたい。

5. 家庭教育の重点と施策

【重点項目】 5－1 家庭教育を推進するリーダーの育成

【評価】 B

【成果・課題】

新旧役員による家庭教育学級運営会議を開催した。リーダー研修会は、コロナ禍でWeb開催となった。

小中学校ではより良い家庭教育学級を作ろうとする参加者の意識が低い。

【重点項目】 5－2 子どもの読書活動の啓発と普及

【評価】 A

【成果・課題】

絵本ライブ、読み聞かせ活動などを実施した。

アンケートにより読書が「嫌い」と答えた小中学生が少数だが存在する。

【重点項目】 5－3 子どもの基礎学力定着のための家庭学習支援

【評価】 B

【成果・課題】

小中ジョイント会議の開催、学力面とメンタル面の支援にタブレットの活用を検討した。

家庭学習への意欲には個人差があり、支援の方法も様々であるため、その方法の選択が難しい。

【重点項目】 5－4 家庭教育参画の啓発

【評価】 C

【成果・課題】

各家庭教育学級はコロナ禍で中止となったが、パパママ教室は書面開催、Web開催などで実施した。

学級生の交流を深めるために、参集、対面で各行事を実施したい。

6. 青少年育成の重点と施策

【重点項目】 6－1 青少年活動を支援する環境づくり

【評価】 B

【成果・課題】

ラジオ体操講習会、青少年を守るつどい、夏期夜間巡回、あいさつ運動を実施した。町民ラジオ体操会、情報モラル教室はコロナ禍のため中止とした。

各行事のPRに力を入れ、参加者の増加を図る。

【重点項目】 6－2 青少年関係団体の指導者育成と主体的活動の支援

【評価】 B

【成果・課題】

指導者を対象にした各種会議を開催した。インリーダー研修会は規模縮小して開催した。

各単位子ども会間の情報が共有できるような場を設定する。

【重点項目】 6－3 青少年の体験活動の目的の明確化

【評価】 C

【成果・課題】

リーダーデイキャンプ、球技大会はコロナ禍のため中止したが、インリーダー研修会は規模縮小して開催した。

単位子ども会のキャンプ活動の再開を目指す。

【重点項目】 6－4 情報モラルに関する啓発の充実

【評価】 A

【成果・課題】

小学校のICT支援員による情報モラル教室を開催した。機関紙「いくせい」で情報モラルの啓発を行った。

今後、研修会を実施した場合、多くの人に参加してもらうためのPR方法や研修内容を考える必要がある。

7. 人権教育の基本方針

【重点項目】 7－1 家庭教育への支援

【評価】 B

【成果・課題】

青少年を守るつどい及び子育てに関する各種会議等を開催した。コロナ禍のため、各種研修会は中止またはWeb開催とした。

支援が必要な家庭や子どもは増加傾向にあるので、今まで以上の多様な対策が必要である。

【重点項目】 7-2 地域社会における学習機会・啓発活動の充実

【評価】 B

【成果・課題】

小学校のICT支援員による情報モラル教室、絆の日を中心とした命の学習及び、SOSの出し方教育等を年間計画に沿って実施した。

現在の活動の様子を広め、取組の価値について広く町民に知ってもらうことで、協力者を募る。

【重点項目】 7-3 いじめや体罰は許されない気風の醸成

【評価】 C

【成果・課題】

いじめ問題対策連絡協議会は書面開催とし、命のバトンふれあい教室では中学生と乳幼児の交流は行わず、動画等を活用して開催した。

いじめや情報モラルは喫緊の課題であり、今後も各行事で参加者が増加するように効果的な周知方法を検討する。

8. 社会体育の重点と施策

【重点項目】 8-1 「町民一人1スポーツ」を目指した生涯スポーツの促進

【評価】 C

【成果・課題】

町民スポーツ大会は、コロナ禍のため全て中止したが、町民運動会にかえてレクリエーションフェスティバルを初めて開催し、約150人が参加した。軽スポーツ教室として「モルック」の体験会を開催した。

町民スポーツ大会の見直しと、軽スポーツの啓発、普及に努める。

【重点項目】 8-2 スポーツを通じた青少年の健全育成の推進

【評価】 C

【成果・課題】

スポーツ少年団の行事や子ども向けのスポーツ行事は、コロナ禍のため大部分が中止となった。

スポーツ少年団の団員数が減少傾向にあるため、活動のPRや体験会を行うなど入団者の確保を図る。

【重点項目】 8-3 競技力の向上を目指した取り組みの充実

【評価】 A

【成果・課題】

加茂郡体育大会へ各種目部が参加し、総合2位となった。坂井杯争奪中濃地区剣道大会を開催し、約450人が参加した。

各種目部の活動結果や体験会等の周知を積極的に行う。

【重点項目】 8-4 地域のふれあいを育むスポーツの促進

【評価】 C

【成果・課題】

町民スポーツ大会は体育協会、体育委員が企画段階から運営に携わっているが、コロナ禍のため全て中止した。MT夢クラブ21の活動冊子を作成、配布した。

小規模の自治会は町民スポーツ大会に参加しない状況になっている。

9. 文化振興の重点と施策

【重点項目】9-1 文化・芸術活動の推進

【評価】C

【成果・課題】

公民館講座、住民が自主的に講師となるマイ講座は、概ね計画どおり実施したが、富加町芸能連盟主催のふれあいオンステージはコロナ禍のため中止となった。

芸能連盟加盟団体構成員の高齢化が進んでいる。

【重点項目】9-2 文化施設の活用

【評価】A

【成果・課題】

資料館夏休み子ども講座の開催、郷土の偉人マンガ「斎藤新五」の制作、「つちびな展」の開催、小学6年生のふるさと学習支援（出前授業）などを実施した。

半布里文化遺産活用協議会（半布里コミッティ）の活動をさらに広げるための仕組みづくりや研修を実施する。

【重点項目】9-3 文化的所産などの保護・保存・活用

【評価】A

【成果・課題】

閨田1号古墳地中レーダー探査事業、町内指定文化財の巡視、歴史講座、史跡等の維持管理を実施した。

夕田墳墓群の保存活用計画を令和6年度までに策定し、計画的な保存と活用を進める。